

京都市子ども安全ネットワークニュース

Vol. 27 平成23年3月 発行：京都市子ども安全会議事務局

教育委員会体育健康教育室 708-5321 http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-4-0-0-0_2.html

平成22年度「京都市学校安全ボランティア講習会」開催 ～見守り活動を通じて、子ども自身が身を守る意識を高めるために！～

今年度は、見守り隊の方々が日頃の見守り活動で懸念されている「交通安全」をテーマに、2月16日に上記の講習会が開催されました。当日は約350名の方が参加され、中には日頃の活動姿で参加された方もおられ、会場の京都市総合教育センターは、熱気と活気があふれていました。

今回も、昨年の講習会で好評であった、各地域で出された見守り活動の課題や実践事例を紹介し、引き続いて京都府警察本部交通事故防止対策室 交通安全教育係長 安田佐智子氏から専門的な視点に基づき交通事故防止のポイント、とりわけ、子ども自身が自身の身を守る意識を高めるために日頃の見守り活動を通じてできることなどを、パワーポイントデータを使って分かりやすく講演していただきました。

豊富な経験を基に、おだやかなしゃべり方で、丁寧に説明していただきました。参加者の皆さんとの質問のキャッチボールもあり、会場は和やかな雰囲気でした。



参加者からの意見等の一例

職務担当者からの話は実感があり、データを用いた説明でより理解が深まった。

交通安全を考える上で、子どもの事故の特徴があることを知った

大人が子どもの見本となる行動をしないといけないと再認識した。

今日の話交通安全教室等で児童に話したい。

子ども達が、自分で自分の身を守る意識を高めるために、見守り活動の中で教えることが必要と思った。

他地域の活動状況は参考になる。自分の校区でも、多くの取組がされていることに改めて感謝したい。



大人も子どもも
自転車利用のルールや
マナーを守り
交通事故を防止
しましょう！

子どもを共に育む
京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、
行動の輪を広げましょう！

平成 22 年度 各支部の意見交換で出された課題や提案事項

見守り隊人員の確保，活動状況，協力体制等

- ・ 見守り活動の次世代への引継ぎ，若い人の育成が課題。地域あげてボランティア精神の醸成が必要。
- ・ 下校時の見守り活動が不十分。何もしなくて良いので通学路に立ってくださいとお願いしているが，なかなか人員が集まらない。
- ・ 毎月，学校から下校時刻予定表をもらい，シフト体制を組んでいるが，組合せが難しく時間の長短に不満もでている。
- ・ 子どもたちから挨拶が返ってこないと活動の励みにならない。
- ・ 中学生・高校生からも励ましを受けるなど，楽しく活動している。
- ・ 活動できる日を自己申告し，班長へ提出。強制ではなく，自主的な活動に取り組んでいる。
- ・ 見守り隊や行政に任せっきりにするのではなく，保護者も子どもをしっかり指導しなくてはならない。見守り隊に対する感謝の気持ちも大切。（PTAの意見）
- ・ 児童に「子ども 110 番の家」とのつながりを意識させる取組として，グループごとに子ども 110 番の家を訪問させている。
- ・ 世代間交流が弱く，感謝の意を伝える心の交流も必要。このことにより，次のやる気につながり，持続可能な活動になる。
- ・ 見守り隊ののぼりのある地域は犯罪を試みる者に安全管理に熱心な地域と思わせる効果があり，行動を躊躇することにつながる。
- ・ 「見守り活動を何のためにやっているのか。」と問われても確固たる答えを持っていないが，代えがたい何かを得ていると思う。決して「やってあげている。」という気持ちはない。

見守り活動を通じての交通安全

- ・ 交通量が増加し，危険な箇所を立て見守り活動をするようになった。
- ・ 当初は防犯中心の活動であったが，交通安全対策にも広がっている。
- ・ 自転車利用者のマナーが悪く，旗を出しても止まらない。自転車による大きな事故が起こらないか心配。制服の警察官を見ても気にせず，マナーを守らない者がいる。
- ・ 自転車利用者が子どもの前で赤信号でも渡るので困る。我々見守り隊が自転車利用者に注意しても聞かない。登校時間帯だけでも自転車通行の制限ができないものか。
- ・ 自転車・バイク通勤者が集団登校の列の間を通り抜けるので危険。旗当番，PTAが中心に体を張って活動している。
- ・ 保護者自身も自転車交通ルールを守っていただきたい。
- ・ 登校時車両進入禁止にもかかわらず，通行する車があり危険。
- ・ 自転車で走行中に事故を起こして加害者となった場合，多額の賠償請求をされることがあることを周知していただきたい。
- ・ 立派な道路や歩道が整備されても果たして安全か疑問に思う。私たち大人が子どもに心理的なことや交通ルールを指導することが重要である。
- ・ 学校でいくら子どもに指導しても，実際に子どもがどのように行動するか分からないので，せめて7:30~8:30 ぐらいの1時間は大人が交通マナーを守るようにしてもらいたい。まずは大人が気を付けるべき。
- ・ 地域の自転車屋さんが参加するなど，地域全体で自転車教室を開催している。

平成 22 年度も見守り活動ありがとうございました。

平成 23 年度も子どもたちの安全確保にご協力・ご支援をお願いします。